



空 手 部

■ 1933年(昭和8年)公認

部員数

32名



部長
遠藤 晶久
社会科学総合学術院
教授



監督
今泉 孝一



主将
秋吉 優斗
スポーツ科学部
埼玉栄

2025年度の早稲田大学空手部は関東大学選手権にて男子形で岩淵・西塚・大原が活躍し、早稲田として初めての表彰台、3位に入賞することができた。女子組手も昨年に続きベスト8、男子組手はベスト16となり、3種目とも全日本大学選手権に出場することができた。また、昨年に引き続き、国際交流を積極的に実施し、5月には全日本学生空手道連盟のイベントの一環で米国・コネル大学空手部との交流稽古を実施し、8月には3年生・4年生が米国・カリフォルニア州サンタバーバラへの遠征を行った。

幼少期から日本のトップレベルで戦ってきた2人と、中国からの留学生で空手初心者1名という四年生トリオであったが、それぞれの強みを存分に発揮して、部を力強く牽引してくれました。3人の醸し出す空気が部内に厳しさと楽しさをバランスよく浸透させてくれたと思います。それが男子形で関東3位入賞、女子組手・男子組手も緒戦を勝ち抜いて、過去初めて全日本選手権に3種目出場するという好結果につながりました。また、今年は3・4年生がアメリカ西海岸に遠征して、早稲田の大先輩が主宰する現地道場生と合同練習を行い、空手という共通言語を通じた国際交流も深めました。支えて頂いた皆様への感謝を忘れず、空手部での経験を活かして社会に羽ばたいて欲しいと思います。

早大空手部95代主将。その任を告げられた瞬間、わずかな不安と大きな自信が入り混じった感情を今でも覚えている。しかし、日々が進むにつれ、その比重は次第に「大きな不安とわずかな自信」へと変わっていった。「主体性を重んじるチーム」であるからこそ、個々の意志を尊重しながら組織をまとめる難しさを痛感した。「本当にこれで良いのか」という葛藤を抱えながらも、主将としてチームをより良く、より強くするために日々試行錯誤を重ねた。同時に、自身も稽古を重ね、世界を相手に戦う貴重な経験を得ることができた。唯一無二の早大空手部。後輩たちには、この環境で大きく成長し、未来へ羽ばたくための最高の準備をしてほしいと願っている。



主務
李 霖
政治経済学部
河原高級中学

新しい生活の中で、新しいことに挑戦したいという気持ちから、早稲田大学空手部に入部しました。2年生の時には団体形の選手として関東団体に出場しつつ、初めて早慶戦の運営にも関わりました。そして4年次には、前部初の外国籍主務として部の運営に携わる機会をいただきました。主務として後輩全員が安心して活動し、練習に集中できる環境をつつくりたいと考えてコツコツ頑張ってきましたが、振り返れば、私自身が多くの方々に支えられてここまで来ることができて感謝しています。監督、先輩方、同期、そして後輩の皆さん、本当にありがとうございました。空手部で過ごした4年間は挑戦の連続であり、自分の限界を何度も見つけ直す日々でした。それでも、多くの人の温かい支えと仲間との時間が、私にとって何よりの財産になりました。後輩の皆さん、これからもそれぞれのペースで成長しながら、自分らしく空手を楽しんでください。皆さんのこれからの活躍を心から応援しています。



本年度試合戦績

成績(早稲田勝利:○、引き分け△、敗戦●)

(男子)

◇第53回 関東学生空手道選手権大会 (5月25日)

男子個人形

- ▷秋吉優斗(スポ4)(第1ラウンド敗退)
- ▷岩淵凌(スポ4)(第1ラウンド敗退)
- ▷大原健太(スポ1)(第1ラウンド敗退)
- ▷西塚悠真(スポ1)(ベスト16)

男子個人組手

- ▷白井健一郎(人科3)(1回戦敗退)
- ▷満田夏旺(高3)(1回戦敗退)
- ▷上野凌雅(法2)(2回戦敗退)
- ▷館花遙季(理工2)(1回戦敗退)
- ▷丹羽啓太(高1)(4回戦敗退)

◇令和7年度新宿区空手道選手権大会 (6月15日)

一般男子形

- ▷白井健一郎(人科3)(3位)

◇内閣総理大臣杯第67回全国空手道選手権大会

(7月5日~6日)

団体形

- ▷大原健太(スポ1)(3位)
- ▷西塚悠真(スポ1)(3位)

個人形

- ▷岩淵凌(スポ3)(8位)
- ▷大原健太(スポ1)(二回戦敗退)

◇第54回東松山市民総合体育大会 (8月10日)

一般男子形

▷川口耀琉(法1)(4位)

◇第41回上尾市空手道選手権大会 (9月23日)

一般男子形

▷川口耀琉(法1)(優勝)

ファミリー団体形

▷川口耀琉(法1)(優勝)

◇第68回関東大学空手道選手権大会 (10月13日)

男子団体組手

▷ベスト16(全日本選手権確定)

男子団体形

▷第3位

◇第68回全日本大学空手道選手権大会 (11月16日)

男子団体組手

▷一回戦敗退

男子団体形

▷5位(ベスト8)

(女子)

◇第53回 関東学生空手道選手権大会 (5月25日)

女子個人組手

▷栗田真悠(スポ2)(3回戦敗退)

▷大田花希(スポ2)(4回戦敗退)(全日本出場権獲得)

▷武川裕奈(社学2)(2回戦敗退)

◇日本空手協会東京都空手道選手権大会 (5月5日)

一般女子組手の部

▷長尾莉菜子(人科3)(6位)

◇令和7年度新宿区空手道選手権大会 (6月15日)

一般女子組手

▷山岡志織理(高2)(3位)

▷松下清香(人科1)(2位)

◇内閣総理大臣杯第67回全国空手道選手権大会

(7月5日~6日)

個人組手

▷白長尾莉奈子(人科3)(3回戦敗退)

◇和道会インターナショナルカップ2025 (8月17日)

一般女子組手-55kg級

▷武川裕奈(社学2)(優勝)

◇6th MANUEL VEGUILLAS INTERNATIONAL KARATE CHAMPIONSHIPS 2025 (8月23日)

senior-55kg female kumite

▷武川裕奈(社学2)(3位)

◇第68回関東大学空手道選手権大会 (10月13日)

女子団体組手:

▷ベスト8(全日本選手権確定)

◇第68回全日本大学空手道選手権大会 (11月16日)

女子団体組手

▷2回戦敗退

